
男女共同参画に関する 県民意識調査報告書 (ダイジェスト版)

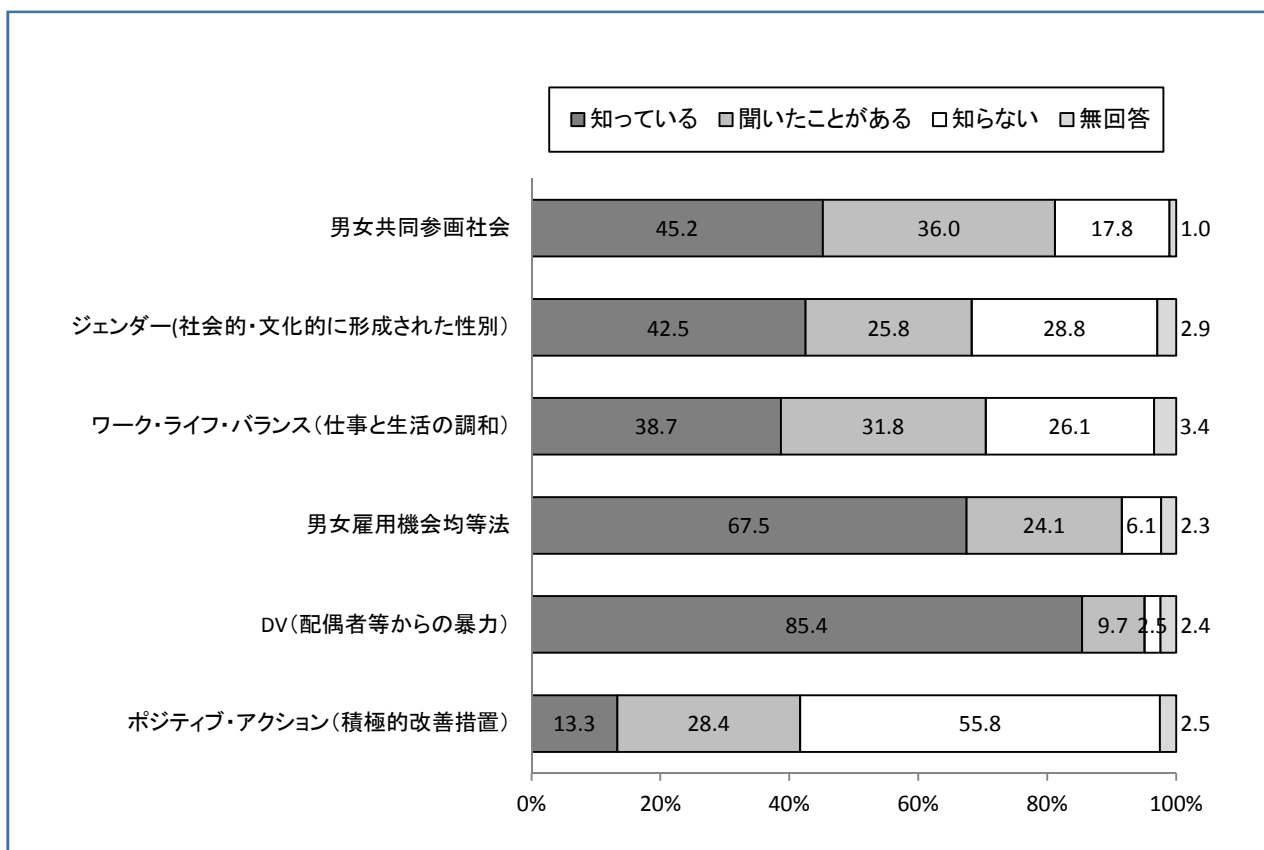
令和2年3月

長野県県民文化部
人権・男女共同参画課

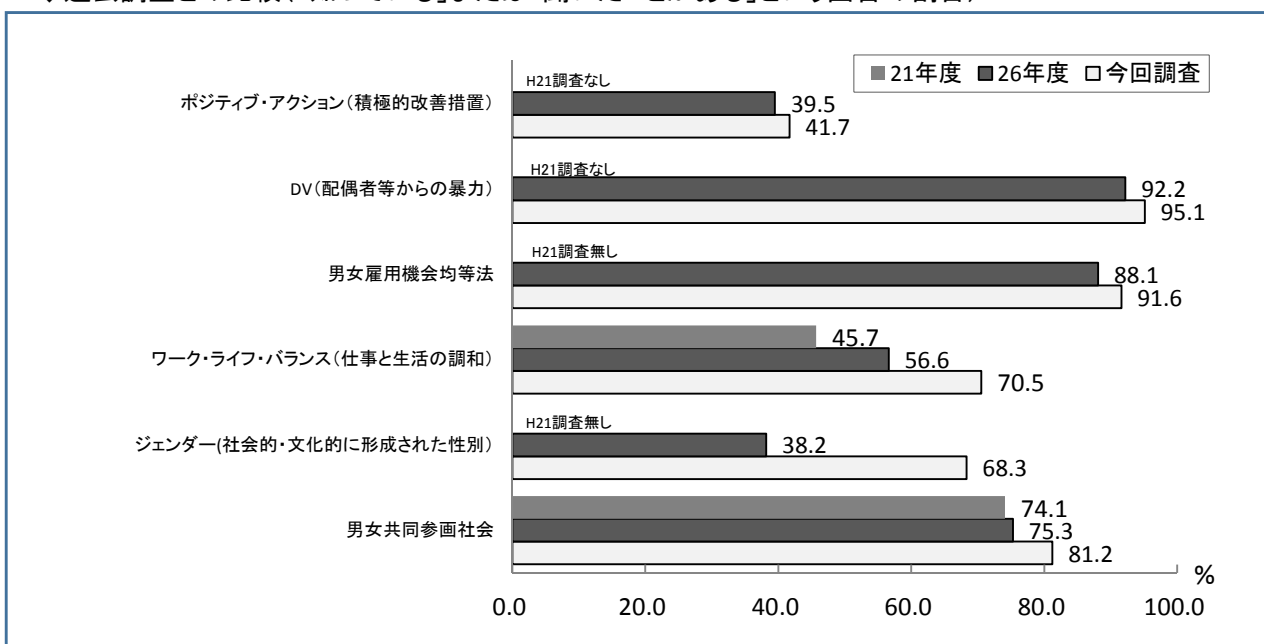
【1】用語や制度の認知度について

(1) 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。

- 「知っている」または「聞いたことがある」割合は、「DV」で95.1%、「男女雇用機会均等法」で91.6%、「男女共同参画社会」で81.2%、「ワーク・ライフ・バランス」で70.5%、「ジェンダー」で68.3%、「ポジティブ・アクション」で41.7%となっています。
- 過去の調査結果と比較してみると、「ワーク・ライフ・バランス」(56.6%→70.5%)と「ジェンダー」(38.2%→68.3%)を挙げた者の割合が上昇しています。

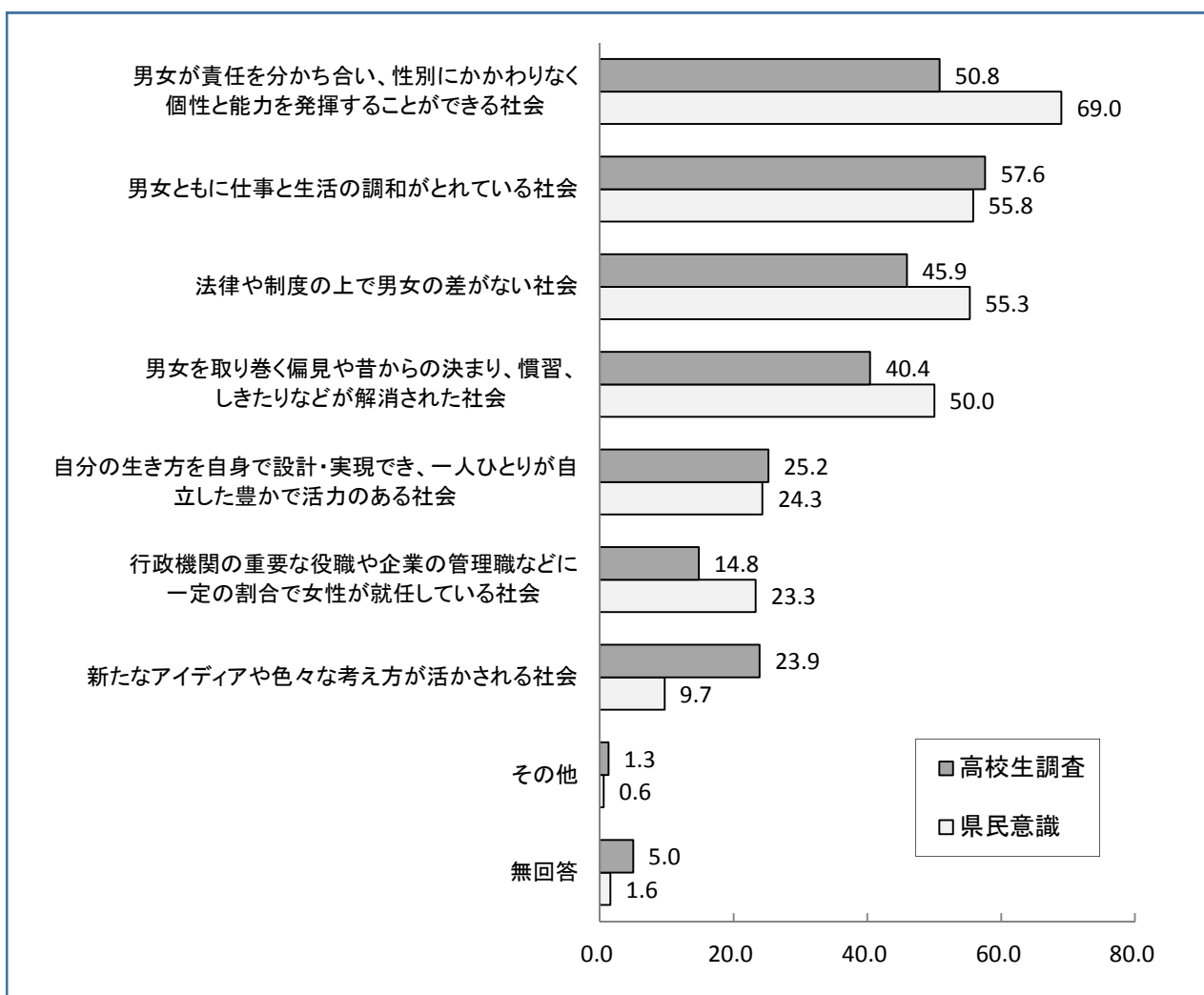


◇過去調査との比較(「知っている」または「聞いたことがある」という回答の割合)



(2) あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。お考えに近いものを3つまで選んでください。

- 「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が69.0%、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」が55.8%、「法律や制度の上で男女の差がない社会」が55.3%となっています。
- 高校生の意識調査では、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」が57.6%、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が50.8%、「法律や制度の上で男女の差がない社会」が45.9%となっています。

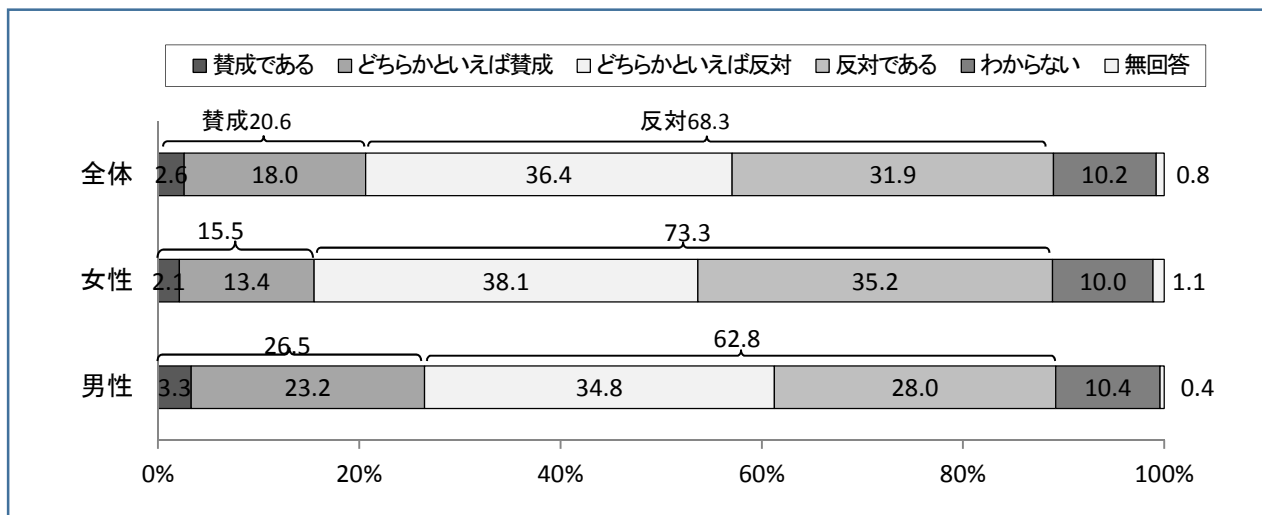


【2】性別役割分担意識について

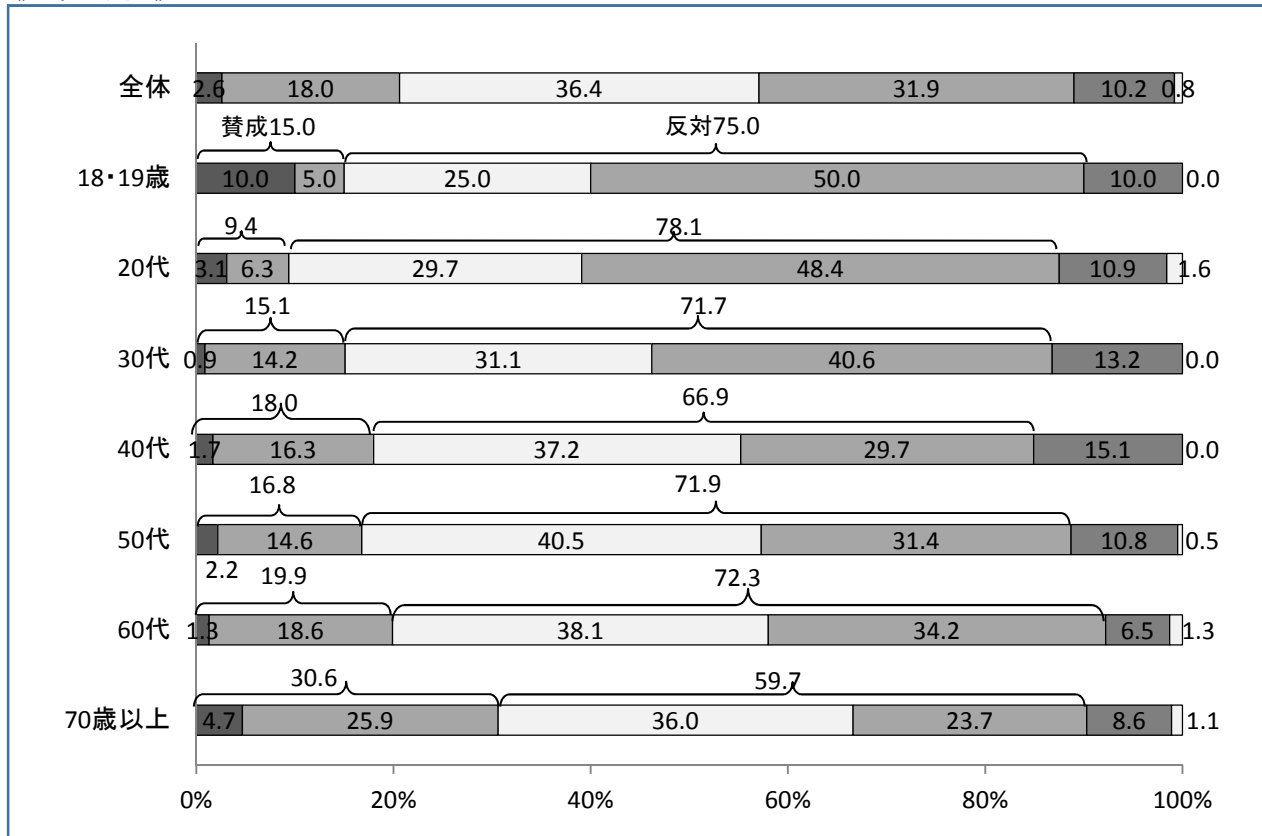
「男は仕事、女は家庭」という、性別によって役割を固定する考え方について、あなたは
どう思いますか。お考えに近いものを1つ選んでください。

- 「反対である」または「どちらかといえば反対」とする割合は、68.3%となっています。
(参考：26年度調査 55.4% 元年度全国調査 59.8%)
- 「反対である」または「どちらかといえば反対」とする割合は、女性 73.3%、男性 62.8%で、
10.5ポイントの差となっています。(参考：26年度調査 女性 63.6%、男性 45.7%)
- 年代別では、70歳以上が他の年代と異なり、「賛成」または「どちらかといえば賛成」の割合
が、3割を上回っています。

《 性別 》

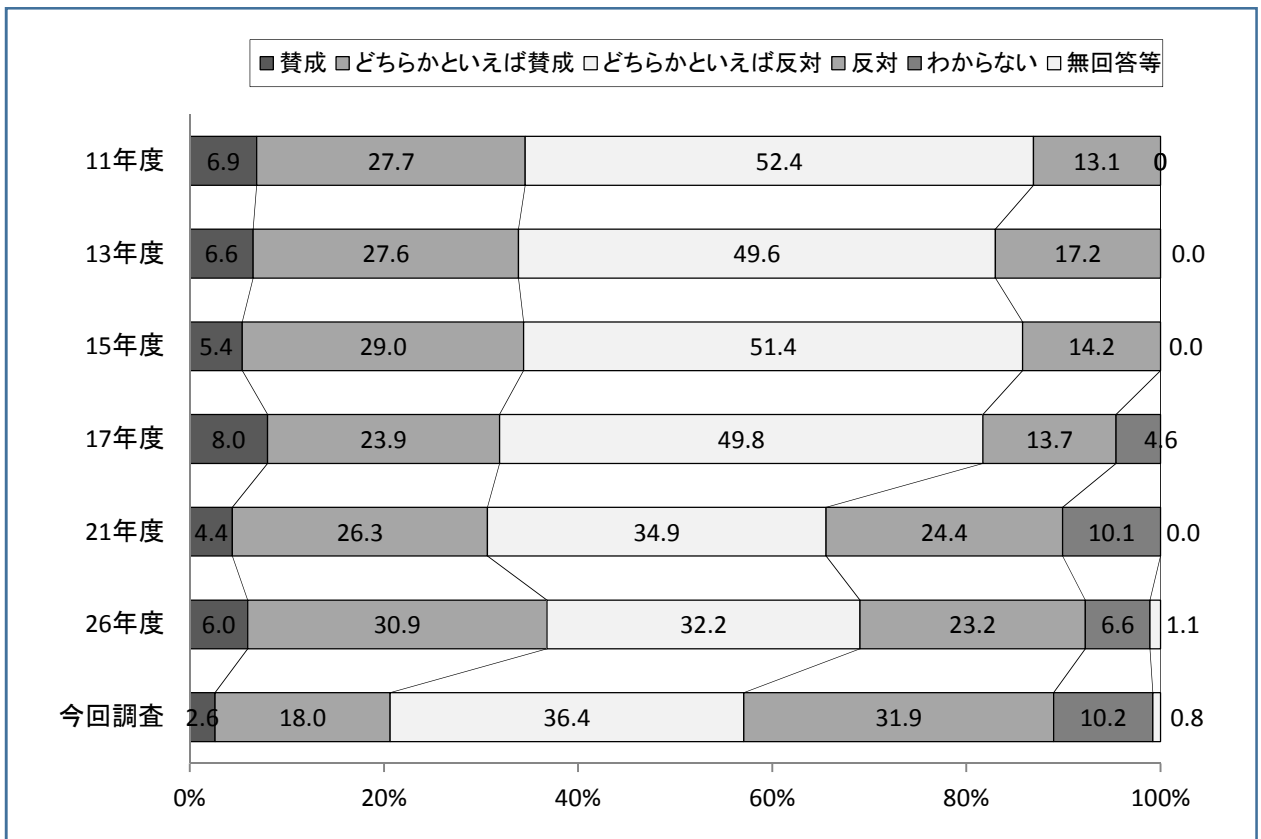


《 年代別 》



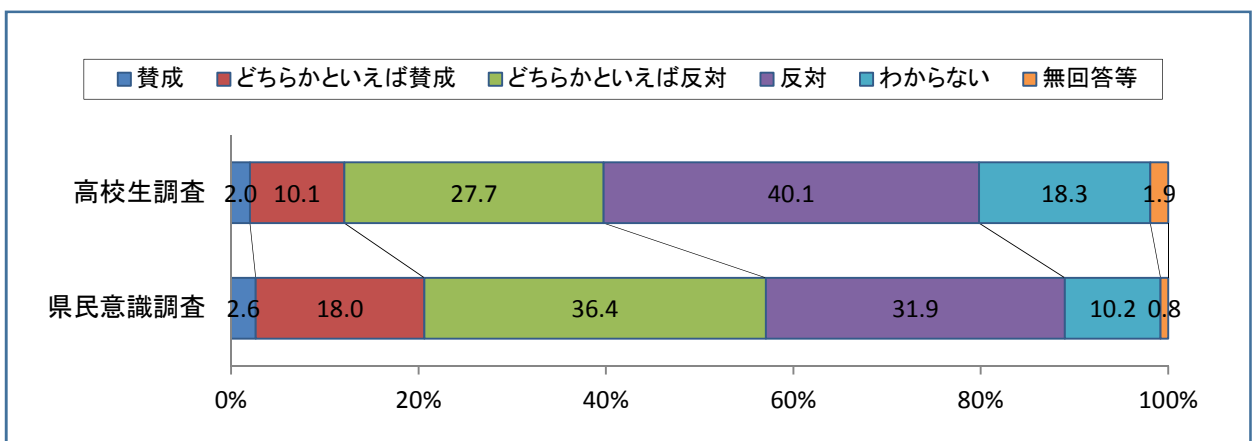
◇「男は仕事、女は家庭」という考え方についての推移

●「賛成」または「どちらかといえば賛成」とする割合は 20.6%で、11年度調査以降、最も低くなっています。



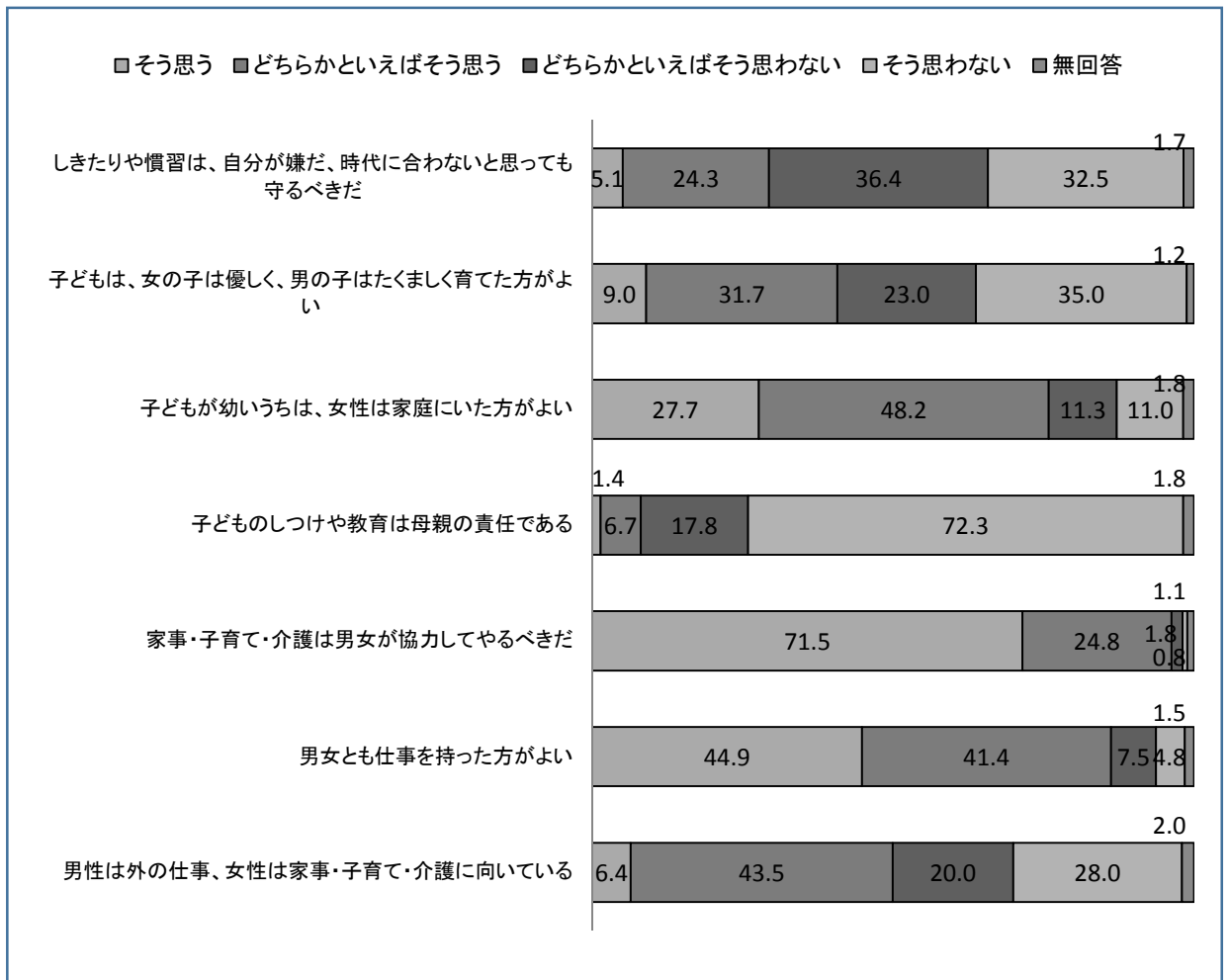
◇「男は仕事、女は家庭」という考え方について高校生の意識調査との比較

●高校生の意識調査結果と比較してみると、「反対である」とする割合は、高校生 40.1%、県民意識調査 31.9%で 8.2 ポイントの差となっています。



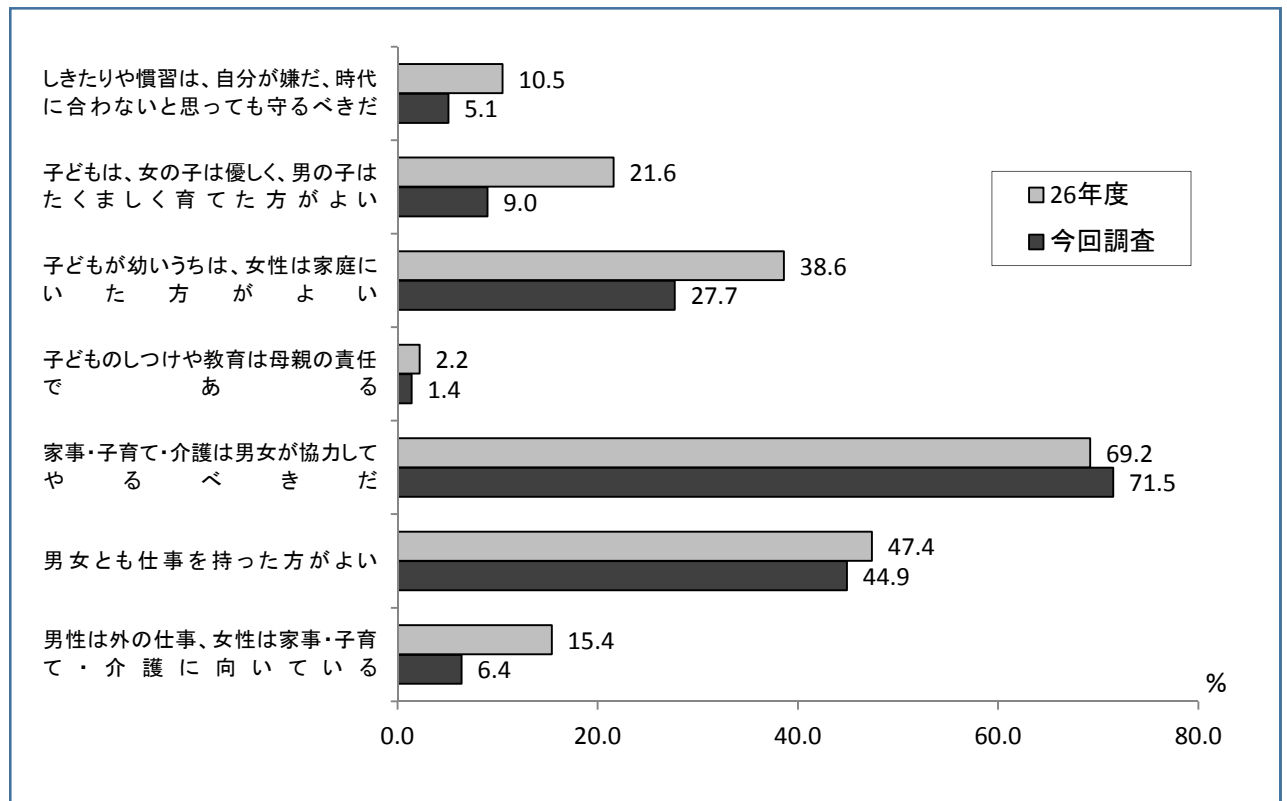
下記についてあなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

- (1) 男性は外の仕事、女性は家事・子育て・介護に向いている
- (2) 男女とも仕事を持った方がよい
- (3) 家事・子育て・介護は男女が協力してやるべきだ
- (4) 子どものしつけや教育は母親の責任である
- (5) 子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい
- (6) 子どもは、女の子は優しく、男の子はたくましく育てた方がよい
- (7) しきたりや慣習は、自分が嫌だ、時代に合わないと思っても守るべきだ



◇「そう思う」と回答した人の割合（前回調査との比較）

●「そう思う」と回答した人の割合を前回調査結果と比較してみると、「子どもは、女の子は優しく、男の子はたくましく育てた方がよい」で12.6ポイント、「子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい」で10.9ポイント減少しています。

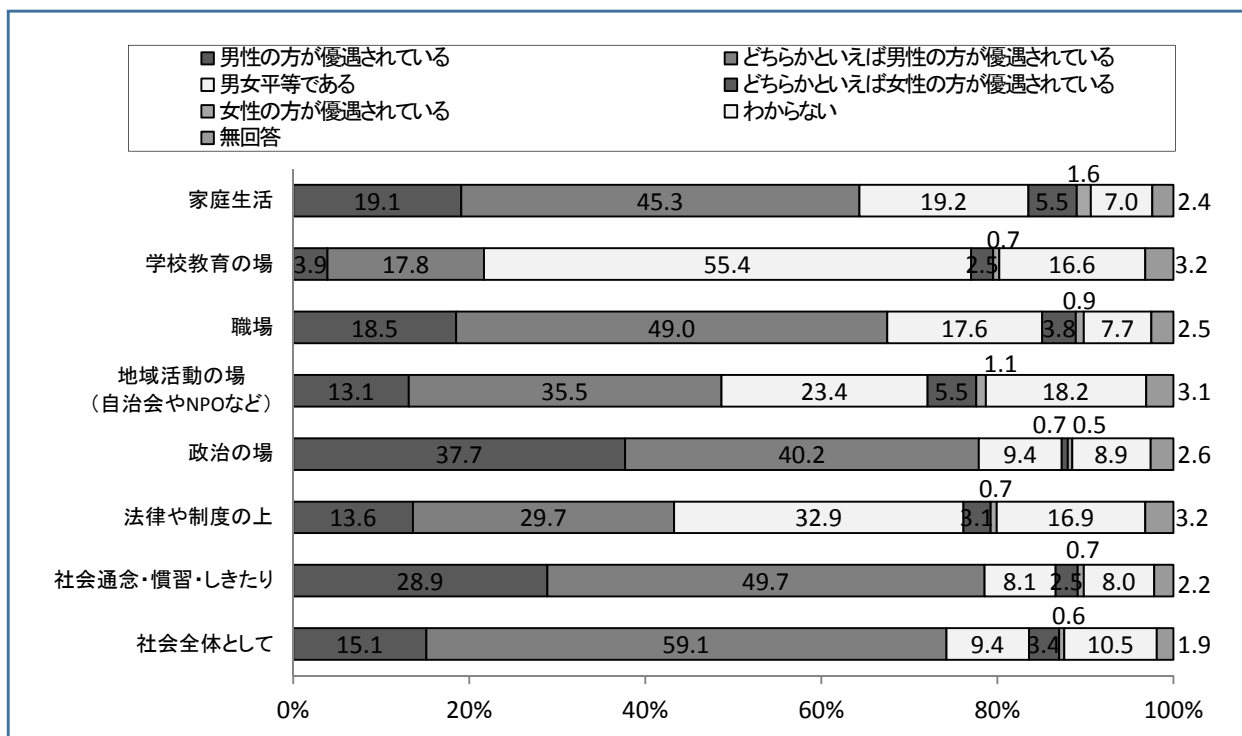


【3】世の中の男女平等感について

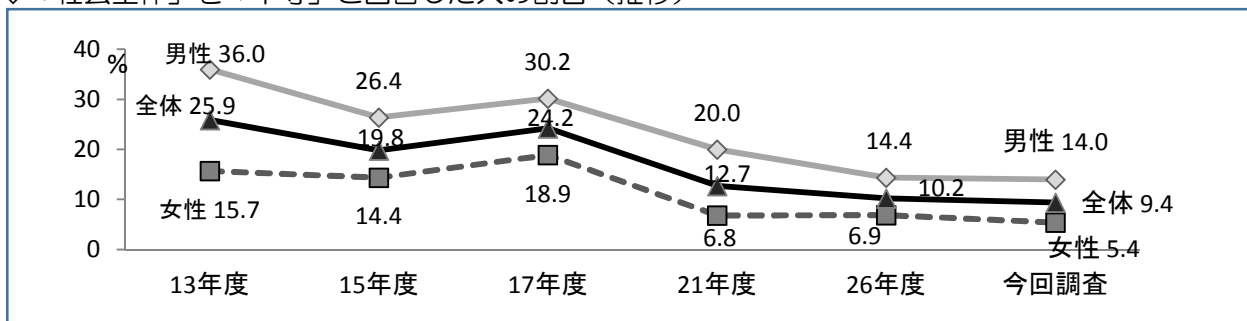
あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

あなたのお考えに最も近いと思うものをそれぞれ1つ選んでください。

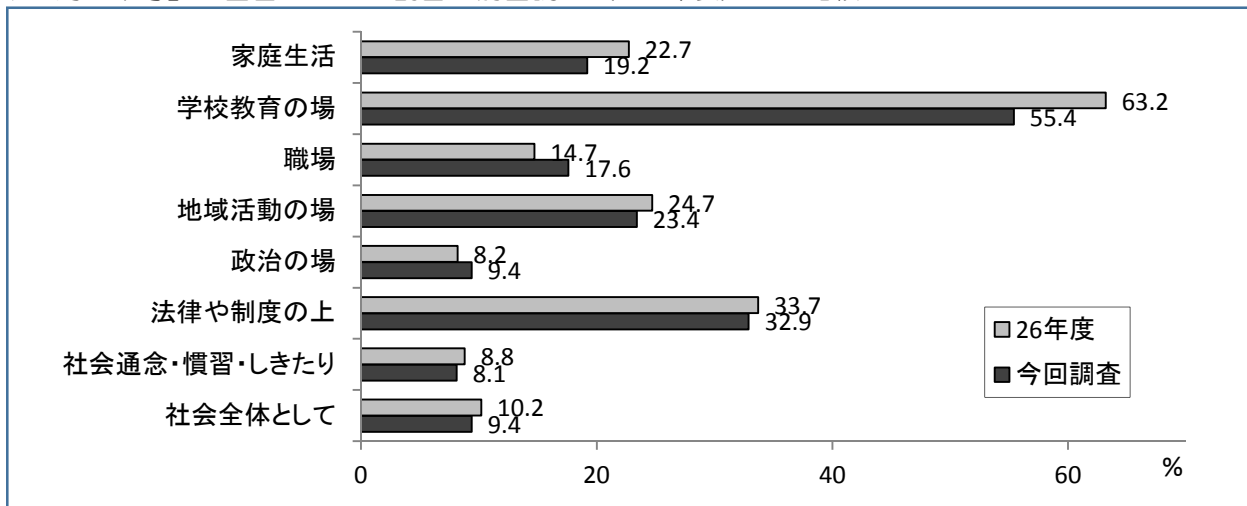
- 「平等」と回答した割合は、「学校教育の場」で55.4%、「法律や制度の上」で32.9%、「地域活動の場」で23.4%、「家庭生活」で19.2%、「職場」で17.6%、「社会全体として」・「政治の場」で9.4%、「社会通念・慣習・しきたり」で8.1%となっています。



◇「社会全体」を「平等」と回答した人の割合（推移）

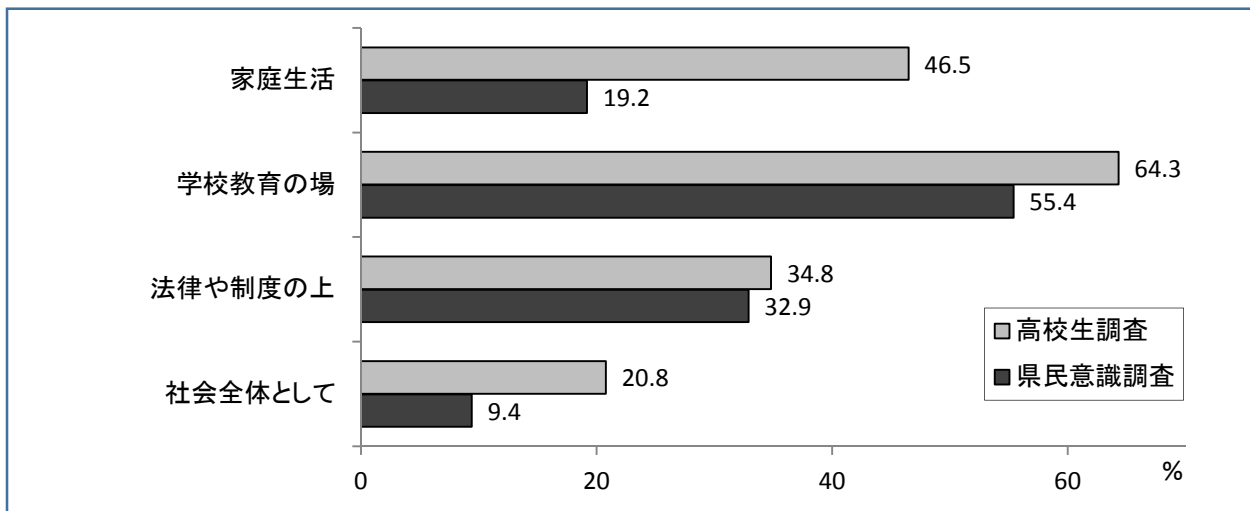


◇「男女平等」と回答した人の割合の前回調査（26年度）との比較



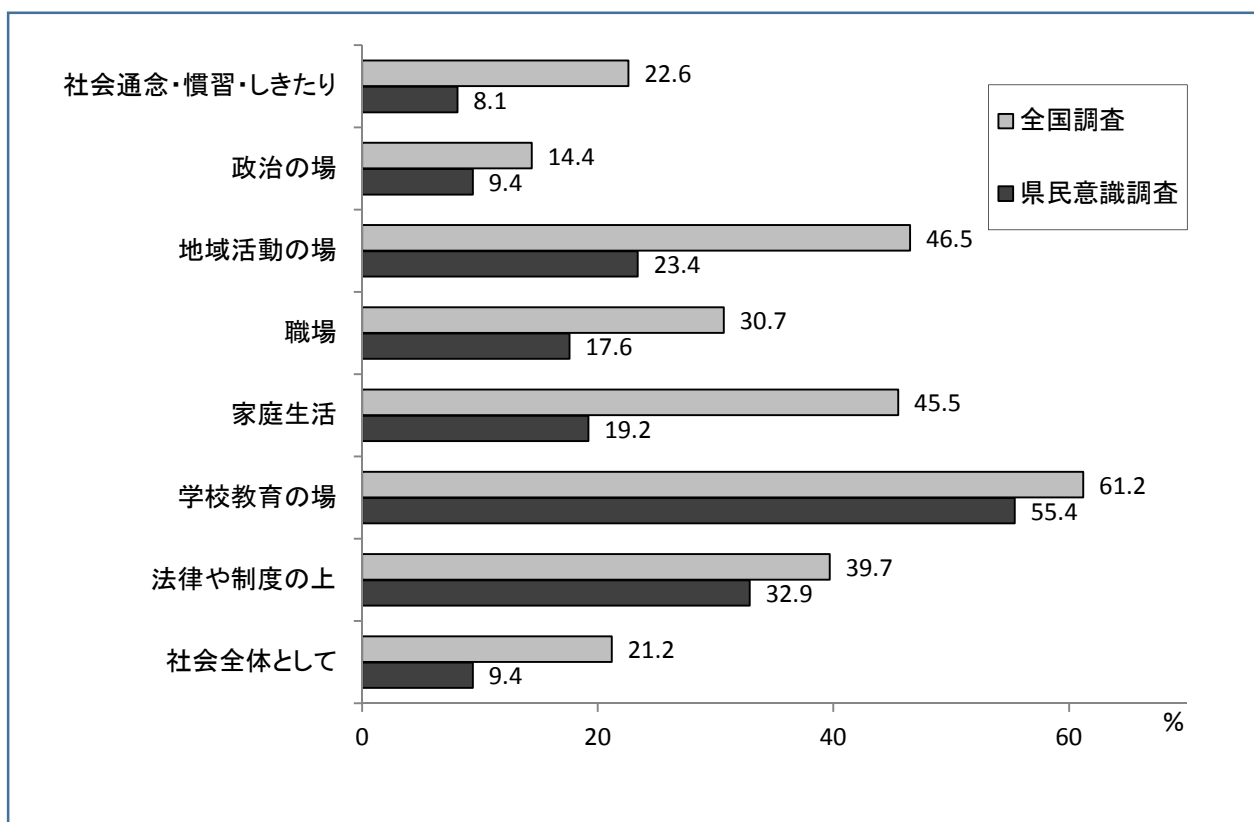
◇「男女平等」と回答した人の割合の高校生の意識調査との比較（高校生の意識調査の項目）

●高校生の意識調査結果と比較してみると、「家庭生活」で高校生調査（46.5%）、県民意識調査（19.2%）で27.3ポイント差となっています。



◇「男女平等」と回答した人の割合の全国調査との比較

●「男女平等」と回答した人の割合を全国調査結果と比較してみると、すべての項目で全国調査よりも低くなっており、特に、「家庭生活」で26.3ポイント、「地域活動の場」で23.1ポイント、「社会通念・慣習・しきたり」で14.5ポイントの差となっています。

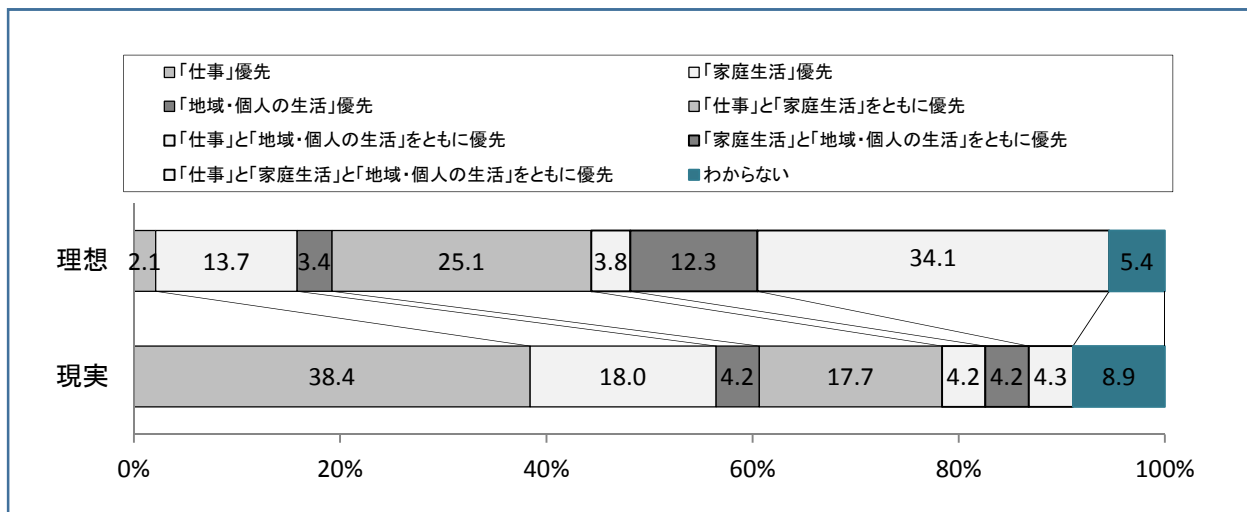


【4】ワーク・ライフ・バランスについて

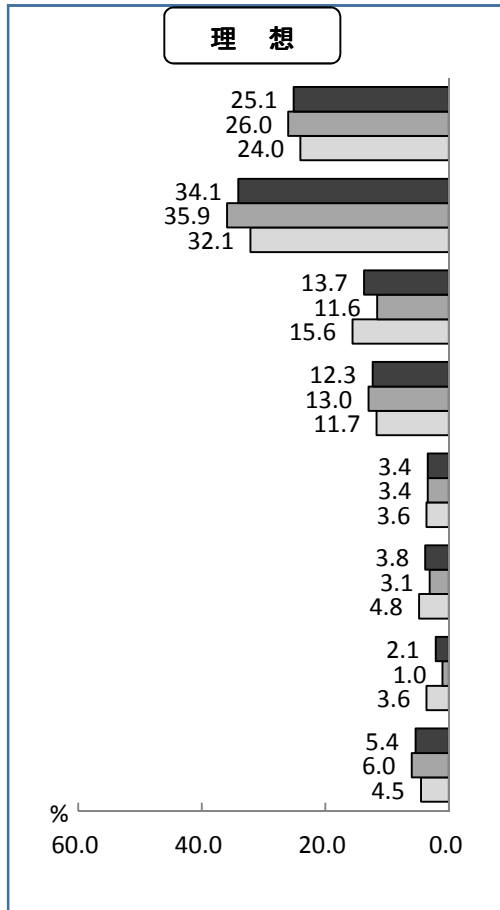
(1) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についておたずねします。

- ① あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つ選んでください。
- ② あなたの現実の生活に最も近いものを1つ選んでください。

- 「仕事優先」を希望する割合は2.1%であるが、現実には38.4%が「仕事優先」となっています。
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」を希望する割合は34.1%ですが、現実には4.3%となっています。
- 前回の調査結果と比較してみると、大きな差異は見られません。



《性別》



「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先

「家庭生活」優先

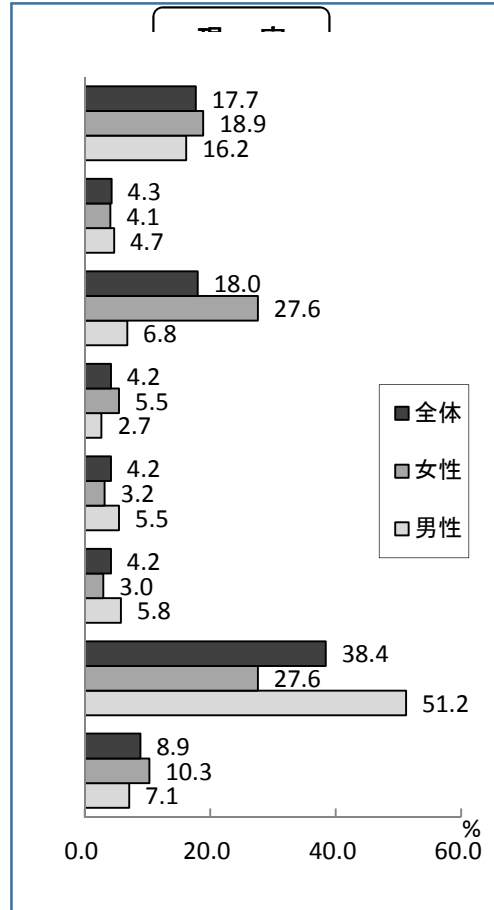
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先

「地域・個人の生活」優先

「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先

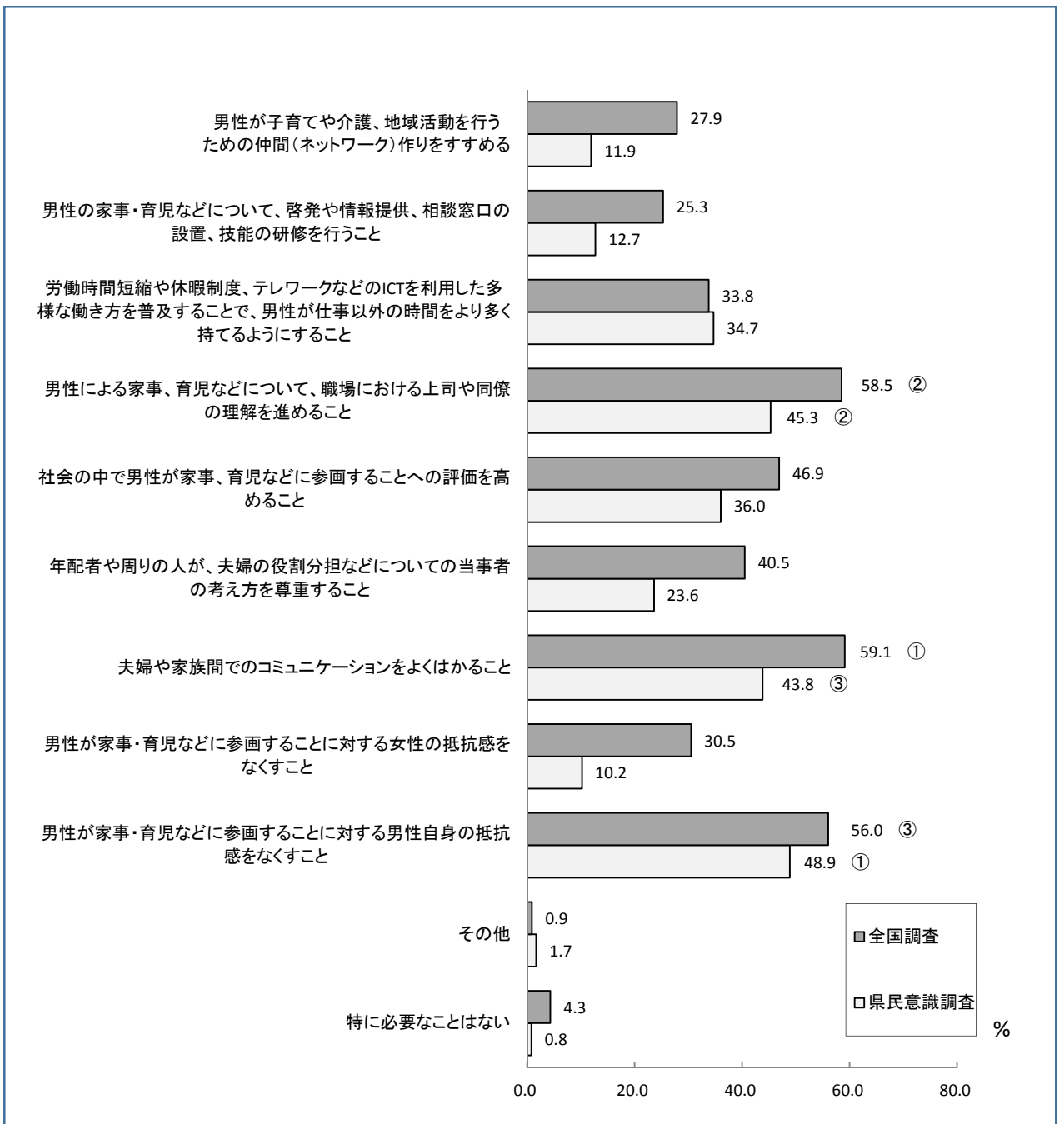
「仕事」優先

わからない



(2) あなたは、現在、女性が分担する機会が多い家事、子育て、介護等に男性が積極的に参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- 「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が48.9%、「男性による家事、育児などについて、職場における上司や同僚の理解を進めること」が45.3%、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が43.8%となっています。
- 全国調査では、上位3項目は変わらず、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が59.1%、「男性による家事、育児などについて、職場における上司や同僚の理解を進めること」が58.5%、「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が56.0%となっています。

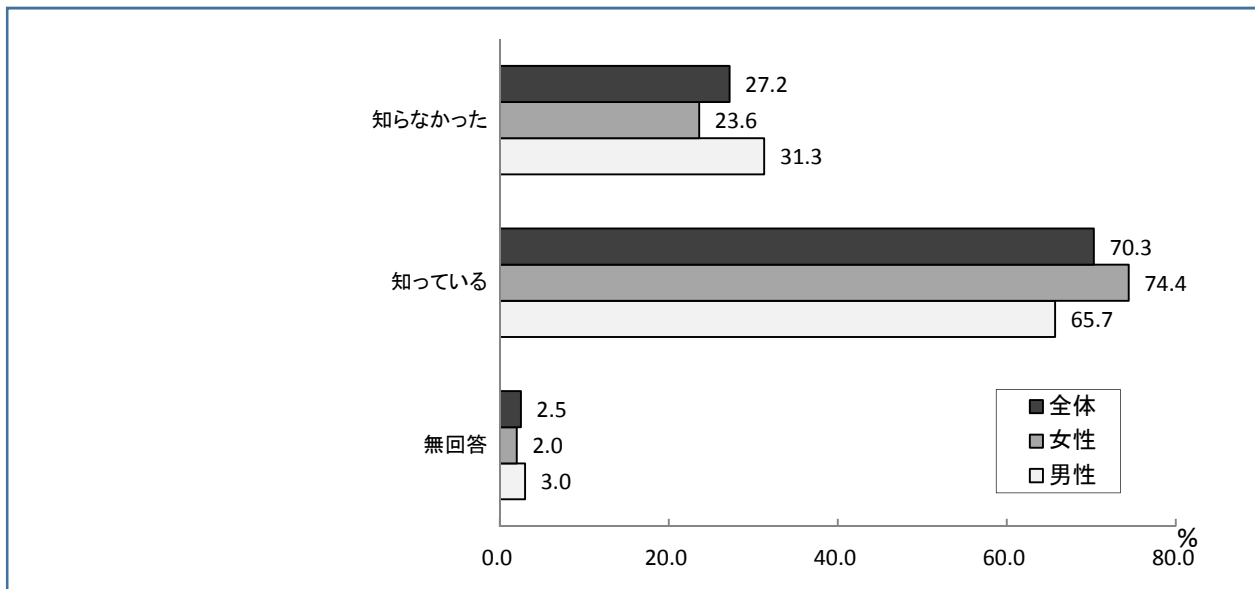


【5】男女間の暴力への対策について

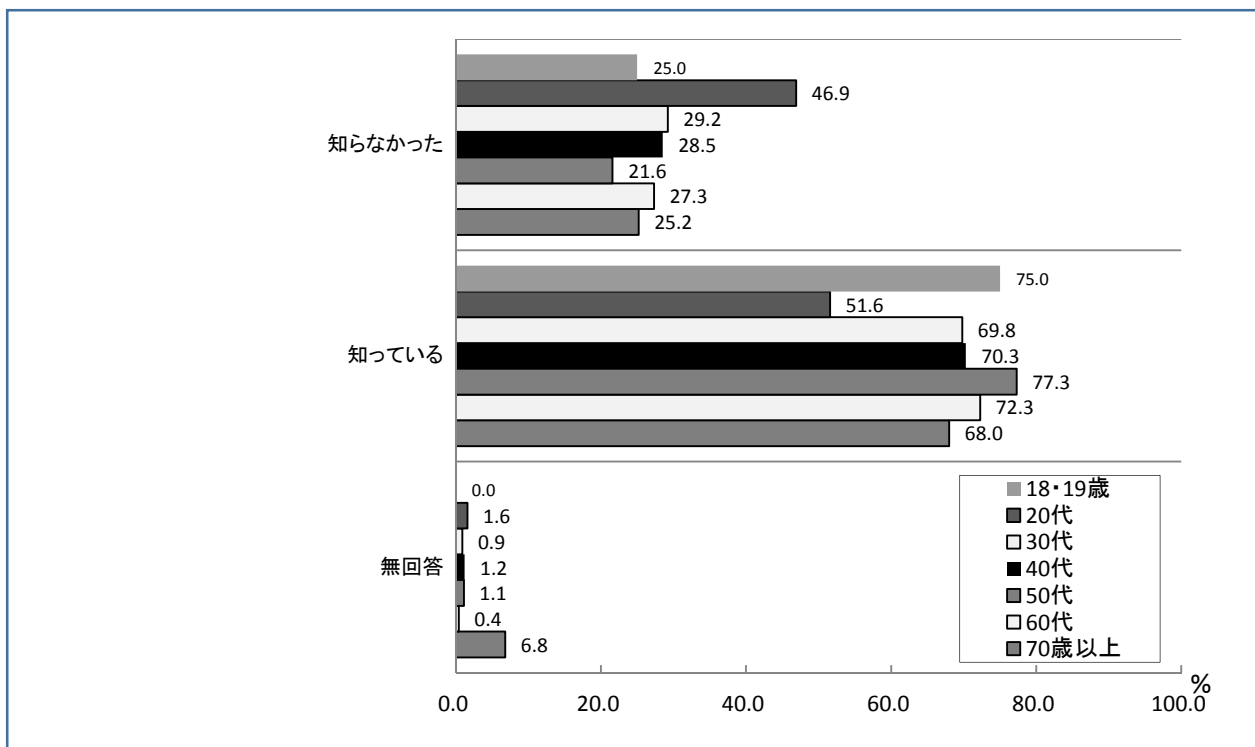
あなたは、配偶者からの暴力について、相談できる窓口があることをご存知ですか。

- 男女ともに、「知っている」とする割合は、7割を超えています。
- 「知らなかった」割合は、男性31.3%、女性23.6%で、7.7ポイントの差となっています。
- 年代別では、「知らなかった」割合は、20代で46.9%と最も高くなっています。

《 性別 》



《 年代別 》



【6】男女共同参画社会の実現について

「男女共同参画社会」を実現するために、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に重要だと思うものを3つまで選んでください。

- 「子育てや介護等の制約があっても誰もが仕事を続けられるよう支援する」が53.4%と最も高く、「性別にかかわらず、すべての人がお互いに人権を尊重するよう教育の機会を充実する」が45.9%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が39.5%となっています。
- 年代別では、子育て世代の30代・40代で「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」の割合が高くなっています。

《 性別 》

